

令和8年度 シラバス

科目	単位数	学年					
歴史総合	2	1					
教科書番号・教科書名		副教材					
081山川 歴総081-901・歴史総合 近代から現代へ 改訂版		明解歴史総合図説シンフォニア 五訂版					
学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。 						
評価の方法	①知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度				
	<ul style="list-style-type: none"> 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解することができる。 諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。 【定期考査、小テスト】	<ul style="list-style-type: none"> 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察することができる。 歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。 【定期考査、小テスト】	<ul style="list-style-type: none"> 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする。 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めることができる。 【ノート、レポート】				
	学習計画及び評価方法						
学期	月	単元名	項目	学習活動と評価のポイント	評価方法		
					①	②	③
第1学期	4	第1章 結びつく世界	1.アジア諸地域の繁栄と日本	・アジア各地に成立した大帝國を比較し、その特徴を考察し、表現している。	○	○	
	2.ヨーロッパにおける主権国家体制の形成とヨーロッパ人の海外進出		・ヨーロッパにおける中央集権的な国家体制の成立と海外進出の結びつきを追究しようとしている。		○	○	
	5	第2章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	1.ヨーロッパ経済の動向と産業革命	・産業革命が国内外に与えた変化を注視している。	○		○
	2.アメリカ独立革命とフランス革命		・二つの革命の歴史的意義を見出そうとしている。			○	
	3.19世紀前半のヨーロッパ		・ウィーン体制がめざしたものと、自由主義やナショナリズムがめざしたものが対立していく構造を理解している。	○			
	6	第3章 明治維新と日本の立憲体制	4.19世紀後半のヨーロッパ	・ビスマルク外交の基本方針が、どのように外交政策に反映されたかを考察し、表現している。	○	○	
	5.19世紀のアメリカ大陸		・アメリカ諸国の独立とその後について理解する。	○		○	
6.西アジアの変容と南アジア・東南アジアの植民地化	・アジアにおける今日のあり方と植民地化の歴史について追究しようとしている。			○	○		
7	第3章 明治維新と日本の立憲体制	7.中国の開港と日本の開国	・太平天国の乱後の中国における改革とその限界について考察している。	○	○		
1.明治維新と諸改革		・大政奉還の上表以降、明治新政府が成立していった経緯を理解している。	○				
2.明治初期の対外関係		・条約や条規の内容をもとに、日本の領土画定の経緯とその課題について調べ、追究しようとしている。	○	○	○		
9	第4章 帝国主義の展開とアジア	3.自由民権運動と立憲体制	・大日本帝国憲法の史料を読み、現在の日本国憲法と比較し、相違点や共通点を具体的に追究しようとしている。	○		○	
10		第5章 第一次世界大戦と大衆社会	1.条約改正と日清戦争	・日清戦争後の、政府と政党の動きについてその推移を考察している。	○	○	
2.日本の産業革命と教育の普及	・産業革命の発展について、産業別に比較し、具体的に考察し追究しようとしている。		○		○		
3.帝国主義と列強の展開	・イギリス・フランス・ドイツ・ロシア・アメリカのそれぞれの経済・政治上の動向をまとめている。		○	○	○		
11	第6章 経済危機と第二次世界大戦	4.世界分割と列強の対立	・列強が、二極分化していく動向を、各国の思惑もふまえて、比較しながら考察している。		○		
5.日露戦争とその影響		・日露戦争の結果、日本国内や周辺地域にどのような影響をおよぼしたかを、追究しようとしている。	○	○	○		
1.第一次世界大戦とロシア革命		・第一次世界大戦によって成立した総力戦体制と、その影響による社会の変化を理解している。	○	○			
12	第7章 戦後の国際秩序と日本の改革	2.国際平和と安全保障	・第一次世界大戦後の各国における変化のあり方を、当時の情勢から考察している。	○	○	○	
3.アジア・アフリカ地域の民族運動		・各地での民族運動の展開を比較しながら、その共通点と相違点について追究しようとしている。	○	○	○		
4.大衆消費社会と市民生活の変容		・労働運動や社会運動が活発化する背景を国際社会の状況と比較しながら検討しようとしている。	○	○	○		
11	第7章 戦後の国際秩序と日本の改革	5.社会・労働運動の進展と大衆の政治参加	・世界恐慌に対して、各国の対応策を比較し、表現している。	○	○		
1.世界恐慌の発生と各国の対応		・日中戦争のおこった背景・過程について理解している。	○	○			
2.ファシズムの台頭		・第二次世界大戦からヨーロッパ諸国がどのような影響を受けたのかをまとめている。	○	○	○		
12	第8章 冷戦と世界経済	3.日本の恐慌と満洲事変	・東アジア諸国の独立の経緯を考察し、旧宗主国のとった対応を、各国別に表現している。	○	○	○	
4.日中戦争と国内外の動き		・戦後処理のあり方を多面的・多角的に考察し、理解し、追究しようとしている。	○	○	○		
5.第二次世界大戦と太平洋戦争		・地図を活用し、西側陣営・東側陣営が構築した防衛体制とおもな紛争地点から、その意図を見出そうとしている。	○	○	○		
12	第8章 冷戦と世界経済	6.西ヨーロッパの経済復興	・西ヨーロッパの地域統合における歩みと・アジア・アフリカの「第三世界」の形成があたえた影響を理解している。		○	○	
4.第三世界の連携と試練		・高度経済成長を支えた貿易黒字について、国際競争力を強めることのできた要因を考察している。		○	○		
5.55年体制の成立		・今日の核軍縮と核保有国の実態について追究しようとしている。		○	○		
1	第9章 グローバル化する世界	6.日本の高度経済成長	・1970年代に世界経済の転換がおこった背景を理解している。	○	○		
7.核戦争の恐怖から軍縮へ		・チョルノービリ原発事故の発生から、今日までの歩みをもとに事故の意味を追究しようとしている。		○	○		
8.冷戦構造のゆらぎ		・アフガニスタン戦争、イラク戦争の問題点について考察し、表現している。	○	○	○		
2	第10章 現代の課題	7.核戦争の恐怖から軍縮へ	・21世紀の改革や政策の影響を考察している。		○	○	
8.冷戦構造のゆらぎ		・近隣諸国との関係について、防衛強化の面・平和と安全の面といった多面的・多角的視点からよりよいあり方を追究しようとしている。		○	○		
9.世界経済の転換					○	○	
3	第10章 現代の課題	10.アジア諸地域の経済発展と市場開放				○	
1.冷戦の終結と国際情勢						○	
2.ソ連の崩壊と経済のグローバル化						○	